

12月

出典：<https://rubese.net/gurucomi001/?id=213889>

あの日のあの川 リレー日記 ～第59話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第59話主人公 宇佐美将平

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県新川(印旛沼放水路))

「当たり前を疑う」

いつのこと？：小学生、現在

どこの川？：新川(印旛沼放水路)

皆さん、おはようございます、こんにちは、こんばんは。池田くんよりバトンを受け取りました、筑波大学白川研究室の宇佐美将平です。私の住んでいた地域には自然な河川がなく、幼少期や青春時代に川と直接触れ合ったことはあまりありません。そのため、このバトンを受け取ったときは正直書くことがないと思いました。しかし、地元の川、新川について調べてみると新たな発見があり、いい機会を与えていただけたなと思っています。少し趣旨がずれるかもしれませんが、かつての新川に対するイメージと、今回調べてみて変化したイメージを書かせてもらえたらと思います。

幼少期の私は、よく新川の河川敷で野球をしていました。毎週のように川の近くに行っていたわけですが、川のことは何も考えず、ひたすら野球に熱中していました。唯一、川とかかわる時があるとすれば、それはボールが川に入ってしまったときです。新川は流れが緩やかなので、長めの虫取り網を使ってなんとかとることができた時もありましたが、水面幅が100mほどで浅くもなく、川に入るのは無理なので、大半はボールがなくなっていました。ボールが川に入るのは、誰かが暴投（投げミス）をしたときやバッティングでファールを打った時で、そのたびに喧嘩になったものです。そんなわけで、新川はボールがなくなる原因となる厄介な存在、くらいに思っていたのです。

ここから、今回新川について調べた内容を書きます。新川は、別名「印旛沼放水路」と呼ばれ、その名の通り印旛沼（流域面積が琵琶湖や霞ヶ浦に次ぐ湖沼）の排水を目的として開削された放水路だそうです。今思えば、どこからどう見ても人工的な河川に見えますが、幼少期に触れ合った唯一の川ですから、これを自然の川と認識して長く生きてきました。もし幼少期に川遊びできるような自然な川と出会えていたら、もっと早く川に興味を持てたのにと、少し悔いが残ります。また、悔いが残るのはそれだけではありません。今回調べるまで、後述するように、新川が治水上大きな役割を果たしていること、新川には特殊な非常に面白い特徴があることも全く知りませんでした。

江戸時代に行われた利根川東遷事業によって利根川の下流となった印旛沼は、周辺に大きな水害をもたらすようになりました。その対策として何度も治水事業が行われては失敗に終わり、1969年によく完成したのが印旛沼放水路（新川・花見川）です。これによって印旛沼周辺の水害はなくなりましたが、多くの人々が江戸時代の工事に携わる中で死亡し、その人々の墓地が印旛沼流域の各所に存在するようです。これを知ると、新川の存在意義が強く伝わってきますよね。子供のころにこれを知ったらどう思っただろうかと考えると、間違いなく新川に対するイメージは変わっていただろうと思います。

また、新川には特殊な非常に面白い特徴がありました。それは流れが逆転する場合があります。新川は基本、印旛沼に向かって非常に緩やかに流れます。しかし、洪水が起きて印旛沼が増水したときには、東京湾方面への流れを止めていた大和田排水機場が排水をはじめ、流れが東京湾方面へと変わる仕組みになっているそうです。子供のころにこれに気づいていたら、きっと友達に自慢気に話していたと思います。現在は洪水時のみでなく、水質悪化防止対策として年数十回程度、大和田排水機場から放流されているようなので、いずれその瞬間に立ち会いたいと思っています。

以上が調べた内容です。身近に存在する大事なことや面白いことに気がついていないことを改めて痛感しました。きっとそのようなことが他にもたくさんあると思います。これからは“当たり前を疑う”ということ意識して、身近に存在する大事なことや面白いことにできるだけ気がつけるように生きていきたいと思っています。リレー日記の趣旨と少しずれてしまいましたが、読んでいただいた皆様の地元の川に対する興味が、より大きくなるきっかけになることを期待して、まとめとさせていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございました。

(次は三森彩音さんにバトンを託します)